


整理No.2019-37		労働災害状況調査表			
発生会社 事業所					
災害発生日時		2019年 3月 18日 (月) 8時 50分 天候() 温度(°C)湿度(%)			
災害区分		不休災害		休業災害 (休業: 3日)	
被災者	部門	製造1課		雇用形態 (正社員)、派遣、契約、その他()	
	年齢	41歳	性別 (男) 女	勤続年数 24年	経験年数 20年
	傷病名	病名 (ギックリ腰)			
	傷病部位	腰			
災害発生状況	使用済溶剤の仕込み作業で使用した2インチ4メートルの鉄製配管(重量:約30kg)を2人で運搬し、所定位置に据えようとして腰を動かした時、腰に痛みを感じた。(ギックリ腰のような症状)		状況概略(写真orイラスト)		
					
災害の型 ^{※1} 無理な動作		作業の形態: 定常、非定常、その他()			
起因物: 鉄製配管		特記事項			
原因分類	1. 人的要因(man)				
	重量物なので2人で運ぶことを基本としていたが、実際には1人で運ぶこともあった。当事者は以前より2人だったとしても重いと感じていたとのこと。そして、据え付け位置の微調整で腰を動かしていた。				
	2. 物に関する要因(machine)				
	運搬した配管が重量物であった。				
3. 環境要因(media)					
4. 管理的要因(management)					
所属部署では20数kgの物(空ドラム)を持ち上げる作業が普通にあり、皆それをこなしていることから、この程度で腰に痛みが走るとは考えていなかった。					
対策	重量物を持ち運ぶ時の、腰痛になりにくい作業姿勢を指導する。				
	例: 重量物を持ち運ぶ時は、重量物に体を付け腰より上の位置で、出来るだけ2人で運ぶ。				
	重量物を持ち上げる時は、物に体を近づけ、重心を低くする。				
荷物を横に移す時には、腰から上をひねるのを止め、下半身ごと回し膝のバネを生かす様にする。					
対策分類 ^{※2} : 1-6, 2-5 (参考文献: (一社)日本塗料工業会発行 作業安全衛生ハンドブック第2版)					

※1) ①から選択

※2) ②から選択(複数可)